

## 11月のGlobal Sessionレポート

期日：2025年11月29日(土)10:30~12:30

場所：ガレリア3階会議室

ゲスト：日置（へき）道代さん

コーディネーター：亀田博さん

タイトル：「嫁いだ家は武家の家~400年の歴史あり~」

参加費：600円

参加者：15名

### 概要

- ・主人と知り合い、23才で結婚し、日置家に
- ・娘が千歳の一宮幼稚園に行くため、千歳の家で両親と暮らす
- ・姑から日置の家のことを聞く
- ・家の中には、兜（カブト）、刀（カタナ）、槍（ヤリ）などがあった
- ・玄関の「長屋門」と、門前の「山陰古道」はよく撮影に使われていた
- ・蔵の中には、古い器や古文書、写真、江戸時代の花嫁衣裳、袴（かみしも）などがあった
- ・日置家の姑の話
- ・娘がアメリカ留学をした時の話
- ・「へき亭」を始めたきっかけ
- ・インバウンドの受け入れスタート
- ・へき亭をしめたこと

参加者：15名

亀田(コーディネーター)さん：では、自己紹介から始めます。

H・Mさん：亀岡で木綿屋をやっています。

A・Nさん：昨年まで大本で仕事をしていました。今は、エスペラント語を広く知ってもらいたいと教えています。

Y・Hさん：生まれも亀岡です。総合商社で仕事をしていたので、長く亀岡を離れていましたが、3年前に亀岡に戻ってきました。Global Sessionではいろいろな話が聞けるので、参加をしています。今日は、歴史のあるへき亭さんを聞くのが楽しみです。

S・Fさん：亀ニケーション（京信さん主催）で、へきさんと出会い、たまたまこちらにおられる時間でしたので、来ました。生の声ははじめて聞きます。

Y・I さん：京くろかる隊に参加し、日本語指導もしています。へき亭さんでは、フルートの演奏なども聞きに行ったことがあります。

M・TU さん：へき亭さんには、最後に行ったときを覚えています。食事も楽しませていただきました。

K・N さん：保津町に住み、米屋をしています。保津町の村おこしなどをしています。日置道代さんとは、18歳の時の自動車学校の同級生でした。

K・T さん：へき家の姪です。

M・T さん：歴史ある京都に住んでいます。歴史あるものを訪問するのが楽しいです。

N・F さん：亀岡市に住み、市役所で仕事をしています。400年もの歴史のある家について聞けるのが楽しみです。

K・T さん： 亀二ヶーションで出会いました。おかみさんとお話しするのが楽しみです。  
(映像作家&脚本家)

M・F さん：この Global Session は、20年ほど前から続いていると思います。定年後に初めて宮前町にある国際センターに行ったら、英語でのセッションがあり、それ以来参加しています。それ以後は日本語でもありますが、世界の話も聞けるので楽しいです。私は、東映で仕事をしていたので、へき亭さんは、水戸黄門の映画づくりの頃から使わせてもらっていると思います。

児嶋： この Global Session は、1999年のオクラホマ州立大学が閉校したあとの、国際センターや亀岡交流活動センターになったときから始め、続けています。もう20年以上にもなりますね。

亀田さん：大津市から来ています。OSU—Kの学生さんがいたころから、ツアーガイドとしてアメリカに行ったところからのつながりです。へき亭さんは、行ったことがなかったのですが、クローズされたという事が残念です。

では、日置さん、まず、自己紹介から始めてお話しをお願いします。



日置（へき）は、名字です。主人と知り合い、日置家には23歳で結婚して来ました。

昔は、25歳くらいに女子になると、「早く結婚せい」と言われ、追い出されるような感覚がありました。毘沙門という地域には、嫁に行くな！などと言われていたようです。

それに、日置家は、江戸幕府の直轄地として、代官をしていました。亀山藩の下ではな

かったのです。そのため、親や親戚中が反対していました。それでも、結婚し、2年間ほどは、京都市内に住んでいました。でも、娘が生まれ、幼稚園は亀岡で行かせたいと思い、帰ってきました。

## 主人と知り合い 日置家に23才で結婚



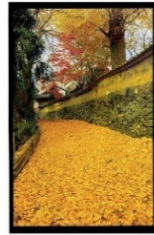
日置家は、龜山（龜岡）の城を真正面に見ることができるといいます。旗本・津田藩の代官を務めていました。また、日置流という弓道の祖とされており、母屋は江戸時代に建てられ、廊下を抜けた門前の道は、京都に通ずる旧街道であります。星敷の所には、石垣土塀が当時のままの姿で残っており、表門や土塀周辺は、時代劇などの撮影にたびたび使用されております。主屋の土間にある竈は、当主が二条城へ参内するときに使われたものです。

また、座敷には、江戸末期に活躍した「丹山」氏と並び称される「岸」氏の襷絵や街立が大切に保存され、当時の面影を残しております。床から眺めていただく庭園には、四季それぞれの趣を感じていただけるかと思います。

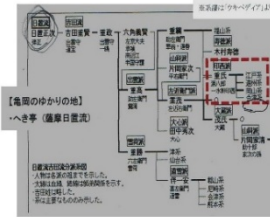
※お参り  
へき亭  
亀山藩本陣跡（日置邸）  
〒650-0088  
大阪府大阪市東淀川区  
077-215-0888

日置家のご案内

## 娘が千歳の一宮幼稚園に行くため 千歳の家で両親と暮らす



## 姑から日置の家のことを知り



長屋門は閉まったままの家でした。そのころから、東映の撮影隊が週に一回ほど来ていました。主人の母は、よく、「うちの家は武士の家やで。嫁さんにもらってやった。」とよく言っていました。でも、寒くて、暗い家で、部屋は全部庭に面しているのです。

台風の時は、停電が怖くて電池をおいて寝ていました。座敷には、甲冑がおりてあり、普通は入らせなかったです。鎧かぶとや、槍も弓もありました。弓は日置流というのがあり、室町時代からの物が飾ってあったようです。槍も戦後 GHQ が来た時に提出する物件を出し、あとは、長い槍もおいてありました。銃も大銃と小銃があり、教育委員会に鑑定を頼んでいます。母は、「亀山藩には関係がない」と最初は断っていたようですが。私も古い物が好きで、蔵には古い食器もたくさんありました。

## 家の中には、兜（カブト）、刀（カタナ）、 槍（ヤリ）などがあつた





玄関の「長屋門」と門前の「山陰古道」はよく撮景三に使われていた



Village という映画もここでロケがありました。昔の映画の素顔の俳優さんをたくさん見ました。



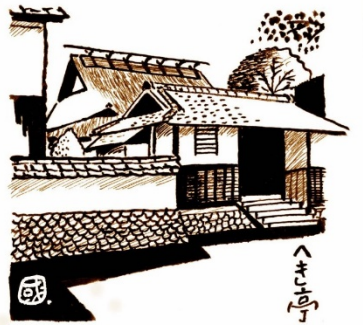
娘がアメリカ留学をした時の話し



私がへき亭で料理を始めたのは、高校を卒業後、料理学校に行ったことも理由のひとつです。娘はお茶と料理も好きでやっていました。それと、英語が好きで大学時代にアメリカのサウスダゴダに留学しました。4年後卒業して帰国しましたが。その間私も一人でア

メリカに行きました。当時はオーム事件があり、日本は危ないので、帰国しなさいと言っていたような時代です。娘がアパートに住んでいると、窓にさわったらポリスが来るようなことがあり、アメリカという国の印象が変わった感じがしま

## 「へき亭」をはじめたきっかけ



へき亭をはじめたきっかけは、最初パン作りを教えていたら、「この雰囲気の中でごはんが食べたい」という声があったからです。「こんな庭があるのはすばらしい」とも言われました。煮物もにんじん料理など、亀岡のおいしい野菜を使って始めました。最初は、近くの人に売ってもらいたかったのですが、「農協に出さねば」と断られていたのですが、そのうち、無人販売などもできるようになり、直接手に入れることもできるようになりました。

## インバウンドの受け入れスタート



亀岡市も外国人訪問者を引き受けていて、農業体験をさせたり、料理体験をするのでと頼まれた事もあります。すし作り体験で作ると、「へらして。多すぎる」という人もいます。また、グルテンフリーを望むと言われ、困ったことがあります。日本の食材の醤油には、小麦を入れるので、すしを食べるときにしょうゆが使えないのです。

終戦 70 周年の記念の年に、1 ヶ月ほど日本に滞在していたグループの中に、アメリカ の元退役軍人だった人がいて、進駐軍が町にでると、「Give me チョコレート」と子ども達が集まって来たそうですが、「日本は成長した」という人がいま





ました。ご清聴ありがとうございました。以上です。

亀田さん：質問のある方はどうぞ。

Y・Hさん：立派なかまへの邸宅ですが、買われた方は、保存できるのでしょうか？

日置さん：夫の母はいつも「亀岡は敵」と言っていました。長屋は西を向いていて、西から来る敵を見はるためとも言っていました。亀岡市は、こんな歴史のある家とは知らなかったと言われています。

Y・Hさん：歴史のあるカブトや刀や鎧も売ったのですか？

日置さん：実は調べてみると、カブトや服などは作られた年代がちがうらしいです。日置家はもう一軒在り、江戸時代から代官を受けている豪農の家のように。こちらはあとで、一式をそろえたいらしいです。刀にも銘があまり無いようです。江戸時代に建てた武家の家に見せるよう建てたいらしいです。

ところで、役者さんもたくさん来られました。役所広司さんや、火野正平さん・北大路欣也さん・里見浩太郎さん・堤真一さん・松山千春さんなど。

「国宝」も撮ったようです。

K・Tさん：へき亭は江戸時代も亀山城を見はる役目があったのではないですか？

日置さん：明治時代になると、家の土地がたくさんあり、少しずつ売って生活していたようです。夫の父は、公務員として働いていましたが。着物も男物の着物はあっても、女物はほとんど無いですし、足袋も修理に出したあとがあり、質素に暮らしていたと思います。大正時代はニューヨークへ行ったと言う話も聞いたので、お金はあったのでしょうか。夫の母は、芦屋生まれでしたが。

代官時代、ここの殿様は、亀岡と江戸と美濃の大垣を往復していたと聞いています。

Y・Hさん：蔵のなかの古文書は？

日置さん：写真を撮って亀岡市がデータにしているようです。

A・Nさん：明治になると薩長の時代になり、徳川家にかかわりがあるのをどうしたかですね。

おいてある陣笠には、日置を「ひおき」と名前が描いてありました。

馬淵さん：家に箱がたくさんありましたね。

日置さん：入れてある建物は、明治期に建てたと聞いています。亀岡史誌を編集されている黒川さんは、「ゴミがほしい」と言われていました。「建物自体の立て替えはしない」とも。今もへき亭に古文書や写真は置いてありますが。正月も二日に来るお客さんのためにおせち料理を作り、家の者は一日はお雑煮と少しのおかずだけを食べていました。亀岡の町とはちがう武家の家のしきたりを守っていたようです。

堂本印象さんも、手紙がありましたが、疎開する家を探して保津の家に来たようです。夫の父の弟は、フィリピンで戦死しています。

亀田さん：みなさん、感想があれば、どうぞ。

Y・Hさん：歴史のある屋敷をよく譲渡されたなあと思います。

日置さん：これは、主人の家で、自分の家ではないという感覚です。女が守ると言われて来ましたが、娘も家の内情をよく知っているのです。

K・Tさん：亀岡にいましたが、へき亭さんのことを知りませんでした。料亭と聞き、つながりができました。亀岡もひとすじ縄では行かないなあと思います。

亀田さん：今までの外人さんのリピーターの方たちとの連絡は？

日置さん：ガイドさんとは連絡がとれます。コロナ禍でしばらくなくなった時期もありましたが、へき亭と関わってくれるお客さんは、大切にしたいと思っています。

今は、鐘タクシー会社の経営にも中国の方が入り込んでいるようですね。

M・Fさん：刀などもよくさびなかったですね。

日置さん：長船（おさふね）などもあり、売るのはさみしいです。亀岡市は貴重な財産をどうして残さないのかなと思います。

M・Fさん：その辺は七福神めぐりもありますが、ガイドの会も知らなかったと思います。へき亭さんの東側に、大本さんの持つ「毘沙門荘」あり、立派な欄間もあるような。

A・Nさん：元の形を残していくのは、むずかしいですね。今の資料館の場所では無理ですね。

M・Fさん：トロッコ電車や、保津川下りやサッカーでたくさんの観光客が亀岡には、来られるようになったので、この歴史も学んでほしいですね。

亀田さん：では、時間が来ましたので終わりにします。もっと感想があれば、児嶋さんにメールで送ってくださいね。

